



Handwritten Japanese characters on a vertical strip of aged paper, including the character 全 (All) at the bottom.

~ 4
1412



門利
1412
卷



極川院百首和哥上目錄

春

立春 子日 露 鶯 若菜

殘雪 梅 柳 早蕨 櫻

春雨 春駒 啼鴈 呼子鳥 苗代

草菜 杜若 藤花 款冬 三月盡

夏

少時分多れ名の二とあるなり
侯の明いしやれ千の侯の
より野のまのりともまの
うらひのまのりともまの
はらゆ細音の解ゆけ水と
ままのれとまのりともまの
たのりまのりともまのり
河内

子曰

種ひて二葉の松と
ままのれとまのりともまのり
公實
進房

たいていともまのりともまのり
種ひて二葉の松と
君代の種ひて二葉の松と
まのりともまのりともまのり
種ひて二葉の松と
と年生れ二葉の松と
野へまのりともまのり
種ひて二葉の松と
種ひて二葉の松と
種ひて二葉の松と

國信
師教
顯季
仲實
俊光
師時
顯仲
基俊
隆源
肥後

野海より川にびら小ね系せの紀伊をかきわらぬ 紀伊
若世れ子年談の今一祿の目して松のしよひと多瀬 河内

三處

まゝあまは海濱の流しと海づらや海を友 公實
わきもころ神傳のまゝまゝこころおれ家ちうころ 住房
杯をへてまゝおれまゝと此の鏡の山もくろ心成り 國信
破のこれありれ社まゝまゝれおあまひくろ酒の山 師乾
みあせはまゝまゝまゝの成りまゝまゝあまひく 揚野の 顯季
細川にまゝの迷とらおころ社まゝの山れ峯まゝまゝ 仲實
浪たて心松のまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ 俊頼

まゝあまは渡りの心いれまゝまゝまゝまゝまゝ 師時
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ 顯仲
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ 基俊
あままゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ 隆源
東海の本まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ 肥後
見渡のまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ 紀伊
いりまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ 河内

常

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ 公實
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ 住房

まきこころは日暮のむらとあつれ残る雪のつらさ
きりぎりすのこゝろをいづれにぞとてしるべし
紀伊

梅

梅の花を神がかりくも御座るとてうめをてらるる
白ひのそつらうらうらうの梅のつれなれとてなまき
月
いづらまのうらうの梅とてうめをてらるる
今も中へ梅さく宿のむせむまゝとてなまき
梅の花吹さきてなまき風のあつめ神とてなまき
おのへまはく梅はゆり雪のあつめ神とてなまき
梅の花をさくわらわのあつめ神とてなまき
公實
延房
國信
師光
歌子
仲實
俊光

梅の花をうらうらとねの宿のあつめ神とてなまき
まきの月をゆめ梅の花をゆめ香のあつめ神とてなまき
いづらまのうらうの梅とてうめをてらるる
梅の花をさくわらわのあつめ神とてなまき
なまき風のあつめ神とてなまき
いづらまのうらうの梅とてうめをてらるる
梅の花をさくわらわのあつめ神とてなまき
河内

柳

いづらまのうらうの梅とてうめをてらるる
いづらまのうらうの梅とてうめをてらるる
いづらまのうらうの梅とてうめをてらるる
いづらまのうらうの梅とてうめをてらるる
いづらまのうらうの梅とてうめをてらるる
延房

春風よ志ころと柳れかこころは老のひけけあう
さうん 國信
 さう川のされあふれあふれは海へまき柳のま
師粉
 依保山柳のいそは津けして心あふ風うぬまふ家
原季
 わさみらるまれ海にさゆれ志ころ柳のあうとさ
仲宣
 藻うり舟ういそあふは心せよ川に柳風よみふ家
俊頼
 河方山むれ柳れあひいそあうらる柳系 師時
原仲
 縁のいそ河さひ柳まらぬあうそりも心海に流る
基俊
 春風よ海に流るるさゆらぬ川に柳木よいそ
隆源
 河さひの柳れ系はうらるる海へまきあふ心海
肥後
 春柳の系はうらるる心海へ吹く風のさうらう

風吹ハ枝うらるるいそまき柳の系うまき柳の系
紀伊
 ま柳の系うらるるいそまき柳の系うまき柳の系
河内

早蕨

春月よあ葉はるる心海へまき柳の系うまき柳の系
公實
 卯山よは心明まらるる心海へまき柳の系うまき柳の系
定房
 ま城あふれ心まらるる心海へまき柳の系うまき柳の系
國信
 武苑野いゆさうねともまき柳の系うまき柳の系
師粉
 紫れ塵うらるる心海へまき柳の系うまき柳の系
原季
 柳のいそまき柳の系うまき柳の系うまき柳の系
仲宣
 春さうと折人も心海へまき柳の系うまき柳の系
俊頼

西海とて程々出れ果敢に去れ~~境~~のちりる~~は~~ 師時
去るまへハ若きものもやわらうん先~~人~~出ら下~~敷~~ 師仲
見山木の陰のまを~~下~~の~~い~~の~~道~~とも~~ま~~は~~は~~ 基後
勢を~~れ~~海~~さ~~中~~ら~~の~~い~~の~~お~~敷~~れ~~ら~~う~~る~~ま~~は~~は~~ 隆源
形火野の~~お~~出~~ら~~う~~ら~~と~~敷~~と~~場~~と~~ま~~を~~も~~人の~~お~~り~~の~~ 肥後
ゆ~~ら~~ら~~う~~の~~い~~の~~お~~ま~~は~~ら~~う~~と~~敷~~と~~い~~の~~お~~出~~ら~~う~~お~~り~~の~~ 紀伊
ひ~~ら~~う~~お~~り~~の~~い~~の~~お~~り~~の~~お~~紫~~の~~敷~~は~~る~~ま~~は~~は~~ 肥後
宿~~あ~~て~~て~~は~~ら~~ま~~ま~~け~~た~~橋~~を~~散~~ら~~う~~ら~~は~~は~~れ~~お~~も~~も~~ 河内
山~~橋~~の~~い~~の~~お~~り~~の~~い~~の~~お~~り~~の~~お~~花~~毎~~よ~~ら~~う~~ら~~や~~わ~~ら~~う~~ 庄房

橋

花ささる~~ま~~峯~~に~~八~~重~~の~~い~~の~~お~~り~~の~~白~~を~~は~~ら~~う~~ら~~と~~敷~~と~~い~~の~~お~~り~~の~~ 國信
本~~林~~の~~お~~り~~の~~緑~~を~~と~~い~~の~~お~~り~~の~~八~~重~~の~~い~~の~~お~~り~~の~~ 師頼
橋~~を~~白~~を~~の~~い~~の~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~風~~の~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~ 肥後
花~~を~~ち~~り~~本~~の~~下~~の~~風~~を~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~い~~の~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~ 仲実
橋~~を~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~い~~の~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~ 俊頼
去~~る~~風~~を~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~い~~の~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~ 師時
去~~る~~風~~を~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~い~~の~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~ 肥後
去~~る~~風~~を~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~い~~の~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~ 隆源
去~~る~~風~~を~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~い~~の~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~ 肥後
去~~る~~風~~を~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~い~~の~~お~~り~~の~~お~~り~~の~~ 隆源

あふひなごころのまは明かのおも
花のむらさきか 紀伊
余心よのこもすけあふひの
花のむらさきか 河内

まきぬ

形入母は縁うほさる破の上うまきぬ
公実
まきぬのまきぬあふひの
花のむらさきか 延房
まきぬのまきぬあふひの
花のむらさきか 國伝
まきぬのまきぬあふひの
花のむらさきか 師教
まきぬのまきぬあふひの
花のむらさきか 俊教
まきぬのまきぬあふひの
花のむらさきか 仲實

まきぬのまきぬあふひの
花のむらさきか 師時
まきぬのまきぬあふひの
花のむらさきか 啓伸
まきぬのまきぬあふひの
花のむらさきか 基後
まきぬのまきぬあふひの
花のむらさきか 隆源
まきぬのまきぬあふひの
花のむらさきか 肥後
まきぬのまきぬあふひの
花のむらさきか 紀伊
まきぬのまきぬあふひの
花のむらさきか 河内

まきぬ

まきぬのまきぬあふひの
花のむらさきか 公實
まきぬのまきぬあふひの
花のむらさきか 延房

我知し志あゆむと飼ふま約の手もくはれ
まこれ物く約なるまのこころはははは
こころはく人やかんまは物あひゆる約は物
小並原まははるる下事ひな用えわろくつ
丸いるけ玉田横のこれ約のくまははは
あひるまはははのこころはははははは
小並原まははははははははははははは
母来ともいそちるまはははははははは
ひ下はははははははははははははははは
我せこころははははははははははははは

國位 師教 啓季 仲実 後頼 師時 啓仲 其後 隆源 肥後

このえはまはまはまはまはまはまはまは
冬に極よか例一約もまはまはははははは
河内

陽鴈

為子ひあはれまはまはまはまはまはまは
越後まはははははははははははははは
まはまはまはまはまはまはまはまはまは
まはまはまはまはまはまはまはまはまは
今まはまはまはまはまはまはまはまは
いふれはまはまはまはまはまはまはまは
まはまはまはまはまはまはまはまはまは

石貫 匡房 國位 師教 啓季 仲実 後頼

物は約集もあつた為子にやういふ海路をきかぬ
乃子のまをさるる越路はた故に増し花や咲く心
世方いひくうのく取落たふ解りいさくはるき
浪わけてまのながるるかたのまの越路は油の片を
小敷の又してや舟はるる不調りりうもの思ふも宿城の
敷は成るるやまのしと年成ぬまもまも初地の子
うらわな所あたらふかまをこれ花月別く取るとよ
河内

喚子名

ともいふそつ物呼子名はつとひをたかふのまむ
思ふまはるる子とわさるる子呼子名はつとひをたかふのまむ
国後 延房

立地を道をもつる事ありふる事ある人各うめえ
流すくのまをたつ芳なるあつためりもなす呼子名は
さか中にたつたつ山の呼子名あつたふ人あつた思ふ
あつた人あつた山の呼子名はつとひをたかふのまむ
東路乃がとえれ笑のよと名何れいふに秋あつた
人教もせぬあつた呼子名何れいふの山もあつた
鳴るいふあつたつと山はまを山のたつたあつた呼子名
に月いふ誰呼子名あつたつたつたあつた山岸
あつたあつたあつた呼子名はつとひをたかふのまむ
あつたあつたあつた山の呼子名はつとひをたかふのまむ

國後 師教 秋季 仲實 俊教 師時 秋仲 基後 隆源 肥後

ゆきまぬたあしゆふ山くは降み多社ある城
明とくも誰ういふゆかふこ多の甲也のいふ記多子
純存 河内

苗代

苗代よほくゆうすり水が風とあはれゆふ
苗代の山田ふとくはあまてゆうすりもや
徳の男の苗代垣とあせれたる今れある井は
小山田あまのむかひ代打斗一苗代も成り
たゆゆの終りまを捨て苗代の水代はゆふ
かまよとせく水にひくく多そい代代ゆふに
林りゆじろの行もゆゆのいしてまよなるい
公家 進房 園位 師範 取彦 仲実 俊光

ふまよのあれゆふはゆふの苗代も成ゆふ
志ありあまゆふの地は苗代もあまゆふ
むきも子う門田まゆふもやとせ代代水と
たのひもゆふ代代ゆふのあれゆふの
尺師ハ行るれ苗代志ありまゆふ
後代男乃苗代もゆふのいわゆるゆふ
われもゆふ志ありまゆふの山田ハ苗代も
昔乃ゆふの垣のあれゆふのゆふ
たゆふのゆふのゆふのゆふ

草土業

師時 取彦 隆源 肥後 紀伊 河内 公家 進房 園位 師範 取彦 仲実 俊光

あつひのく揃てゆん草はるるむら花ゆふ露と毎國に
淡茅生の紫ゆく成るるり今也し其花すむれりせん 師乳
維なく雲田のを舞はばとれあさけ汁成るる油 啟孝
やら藎わる承形ゆふに我獨物とせぬ味も草飲り 俊光
わさもあふ花の枝とがさみそしぬり草うら心しあや 伸賢
る花梅の枝ゆいへん今流む成人の物よ生り草片 師時
わさらちや其うら宿れつ不草誰採の多よりめせん 那伴
まは那れ茅花下り流をよとれとめたけ汁成るる油 基後
わさけりう宿れ卵向のま乃野よ草揃とふふれ川 隆保
破郷乃淡茅う系に替りく其く草花流すまわ 肥後

草二草すまふ花野へいさして約たさゆくを心し備ふ 紀侯
ふふとらちるひの曇りつや草うくもゆくし草心す 河内

杜若

花の月海しほさまより杜若あめれ志あさてむし遠く 云美
風吹ハ雲りき浪のうき流るる浪のわらわをゆせり分り 匡房
花より一もそくひもるるさ杜若ま雲の開り小ちと雲 園代
ふふとらちるひの曇りつや草うくもゆくし草心す 師乳
東海のうらあまれ杜若ま雲成しあえし開ふ多うか 旅孝
鳴るる月地をこれ杜若さく成るるゆふをくして成れ 伸賢
ま雲のともく水浪のうけいへんあさけ汁成るる油 俊光

土奈の冬より浦より松の池のあまふれしひかりの
 師時
 浪をりあふふぬまのうたひのあまふれしひかりの
 成伴
 将介の衣よりてふ松の葉よりてふ松の葉よりてふ松の葉より
 基後
 見らりりひもさあふり記ははくは人毎にめてむおの
 隆原
 浪をり依見の里のつらつらひもさあふり記ははくは人毎にめてむおの
 肥後
 菊の池のふしとあふり記ははくは人毎にめてむおの
 紀伊
 松の池のふしとあふり記ははくは人毎にめてむおの
 河内

藤花

なみり記のふしとあふり記ははくは人毎にめてむおの
 公齊
 河内
 河内

おなひく風のきり記のふしとあふり記ははくは人毎にめてむおの
 國作
 松陰の縁のふしとあふり記ははくは人毎にめてむおの
 師執
 浪をりあふふぬまのうたひのあまふれしひかりの
 成伴
 将介の衣よりてふ松の葉よりてふ松の葉よりてふ松の葉より
 基後
 見らりりひもさあふり記ははくは人毎にめてむおの
 隆原
 浪をり依見の里のつらつらひもさあふり記ははくは人毎にめてむおの
 肥後

昔は花屋の白浪あふくもつらけはう白まじり津歌 紀伊
しつされよいくをなほし花なれは逢うらん地巻浪 河内

歌々

我宿はわのれ里井くもみよ杉柳 冬咲山吹花 公實
喜物も井子の河あり歌うつやくうくえん山吹花 匡房
雲の底清波川のそわくれ浪形り明く春は歌冬 國信
壁なく門の中河のあきくみ庭おろ柳り春の山吹 師教
山吹のむくく雪行来毎よけくゆりくえ地巻やゆり 歌季
蛙なく海の池巻歌は流せは春の山吹八重咲より 伴光
風吹け浪やわかちゆくゆり春よふく山吹花か 俊成

玉の井くさくら花も春は山吹の花をそ宿は感あふき 師時
初あよ春の山吹くすももれこの白ひ志用は初り 歌仲
山吹花咲きより河津あり井は里人も同し 基俊
咲ぬ事いふ人多くある山吹の小橋を記よつぬ橋 隆源
折るに白ひも波され流今井縁の後の山吹の花 肥後
歎冬の時も春人も昔よわあ流井のそはひは 紀伊
くらな井くよ咲くや山吹はえしゆの志なぬ白ひ 河内

三月書盡

ゆけくもさるぬまきくは志りるうく公實
流ひくもさるぬまきくは志りるうく公實
流ひくもさるぬまきくは志りるうく公實

卯の味かまの冬ありの交約高れしら社を建
山ありて縁とて卯の味かまの味ハ築はり
卯の味ハ書ハ記引くその味にハ山堂 河内

葵

卯の味かまの味ハ記引くその味にハ山堂 河内
大分ハ光城をひく卯の味かまの味ハ築はり
卯の味ハ書ハ記引くその味にハ山堂 河内
日新山ありて縁とて卯の味かまの味ハ築はり
昔よりあるの味ハ記引くその味にハ山堂 河内
卯の味ハ書ハ記引くその味にハ山堂 河内

卯の味かまの味ハ記引くその味にハ山堂 河内
大分ハ光城をひく卯の味かまの味ハ築はり
卯の味ハ書ハ記引くその味にハ山堂 河内
日新山ありて縁とて卯の味かまの味ハ築はり
昔よりあるの味ハ記引くその味にハ山堂 河内
卯の味ハ書ハ記引くその味にハ山堂 河内

葵

卯の味かまの味ハ記引くその味にハ山堂 河内

和さもあふねんれんれん月由よわ付くそ給ふ山郭云
しと志もるそあやまらぬゆふ今も一尋る郭云
たふげるくそれぬるふか何る先々言はれり
子規たのねんそまうぬあやまらぬ一と志いあまの
我常の松のりぬいあやまらん山郭云わらふそ
み月子のあつた森の松鶴あつた子枝の枝毎ふけ
久賢の天暖久山おつたあやまらぬゆふ今も一尋る郭云
わらふそを續けつたの松鶴あつた子枝の枝毎ふけ
一と志いあまのねんれんれん月由よわ付くそ給ふ山郭云
思ひ給ふ人徳なるそあやまらぬゆふ今も一尋る郭云

庭房
四信
師乳
乳香
仲夏
俊乳
師時
那仲
基俊
隆源

山崎くぬきあまの郭云あつた子枝の枝毎ふけ
松鶴あつた子枝の枝毎ふけ
久賢の天暖久山おつたあやまらぬゆふ今も一尋る郭云

昔昔蒲

あやめあまのねんれんれん月由よわ付くそ給ふ山郭云
思ひ給ふ人徳なるそあやまらぬゆふ今も一尋る郭云
たふげるくそれぬるふか何る先々言はれり
子規たのねんそまうぬあやまらぬ一と志いあまの
我常の松のりぬいあやまらん山郭云わらふそ
み月子のあつた森の松鶴あつた子枝の枝毎ふけ
久賢の天暖久山おつたあやまらぬゆふ今も一尋る郭云
わらふそを續けつたの松鶴あつた子枝の枝毎ふけ
一と志いあまのねんれんれん月由よわ付くそ給ふ山郭云
思ひ給ふ人徳なるそあやまらぬゆふ今も一尋る郭云

公實
庭房
四信
師乳
乳香
仲夏
俊乳
師時
那仲
基俊
隆源

橋は木を伐りて作り置けりてあまのつたやうなり 俊頼
 吹舟の舟のりてさかき此里にたれ橋は白きなり 師時
 我園の花橋のたされ金の花のたれなる成なり 政季
 昔より人の形見とたれ園にたれ橋は袖なるなり 基俊
 軒ちりてふ橋のたれ白きもたれ神もたれ 隆源
 故にたれ橋なるなりをたれ引かると人もたれ 肥後
 さ月やたれ橋のたれたれあやめ人のたれたれ 紀伊
 なりたれ花橋の白き花のたれたれたれ神もたれ 河内
 雲
 新波の舟のたれたれたれたれたれたれたれたれ 公實

舟のたれたれたれたれたれたれたれたれたれ 延彦
 舟のたれたれたれたれたれたれたれたれたれ 國信
 舟のたれたれたれたれたれたれたれたれたれ 師光
 舟のたれたれたれたれたれたれたれたれたれ 政季
 舟のたれたれたれたれたれたれたれたれたれ 俊頼
 舟のたれたれたれたれたれたれたれたれたれ 師時
 舟のたれたれたれたれたれたれたれたれたれ 政季
 舟のたれたれたれたれたれたれたれたれたれ 隆源

能とこゆり登のひらりかじへむき成りて狭
吹風はへの草へこられと光さぬハ登成り重
はあよ入とも滑ぬ登うかいけりあり思ひ成ん
肥後 紀伊 河内

蚊遣火

蚊遣火の下にこゆきハわらびるくじりの道とさる
すなまき常にかたう蚊遣火あつりハわらびる
想の道社下にくゆめ蚊遣火れゆくハ成りてあつり
蚊遣火の烟りこじりの道ハ縁の御や藤の成り世
わさもこじりてあつり蚊遣火の下にこゆきハわらびる
山道の常とあつり蚊遣火の下にこゆきハわらびる
公貴 匡房 因信 師乾 弘孝 仲夏

世中をわらびるくじりの道とさる
すなまき常にかたう蚊遣火あつりハわらびる
想の道社下にくゆめ蚊遣火れゆくハ成りてあつり
蚊遣火の烟りこじりの道ハ縁の御や藤の成り世
わさもこじりてあつり蚊遣火の下にこゆきハわらびる
山道の常とあつり蚊遣火の下にこゆきハわらびる
肥後 隆源 肥後 紀伊 河内

蓮

池よりうらな蓮のうらは社人あつりわらびる
三寶

あひ海よりくろれぬ花を哀あつみのらん蓮の花
 ちほりららら^蓮の浮葉の志同ぬか海の中もたのの
 し女子あつ地の草けふつりけり花咲くより
 流りては中を詠しつ蓮葉つもの秋を秋宿し
 夏地の蓮乃露とくろくくつりての露りりり
 夏ぬれは千のらばあつちのあつちと初^後神
 とやこも水花^蓮をせぬあつちの蓮を蓮^蓮
 蓮葉はあつちの花をたぬゆりあつちの蓮^蓮
 浮世はかえんあつちと蓮葉のあつちの蓮^蓮
 二ふとけりあつちとあつちのあつちの蓮^蓮

匡房 國信 師乾 既仲 仲文 俊光 師時 既仲 基後 隆源

白くも白く蓮のあつちの蓮^蓮
 あつちの蓮の花はらりけりあつちの蓮^蓮
 既今とくもあつちの蓮葉のあつちの蓮^蓮
 蓮^蓮

既後 紀伊 河内 云々 匡房 國信 師乾 既仲 仲文 俊光 師時 既仲 基後 隆源

立下れハ海よりそり夏衣妹や衣の唐いしききん 肥後
詠もはよあつし月日波衣とく夏衣とてしききん 紀伊
今もらんぬさるもよし出るる波衣とて誰なるらんしききん 河内

荒和歌

河の瀬はたさし此後とらるる名は只の神もつららん 多
松原のともせのあまは柳えり今年此命のてつらん 匡房
夏掛へおしし社の神けし我もよる波衣とてあま 國信
わさしきうおししれと此おたしきすめさうら夏後師乾
育月の門をの柳らるるいさなう此後せぬ人筋と 歌
八百前神となくし波衣とらるるいさなう此後せぬ人筋と 仲文

はるるわさし波衣とらるるいさなう此後せぬ人筋と 後靴
あさねはつし事波衣とらるるいさなう此後せぬ人筋と 師時
いししやさし波衣とらるるいさなう此後せぬ人筋と 歌
六月のさし波衣とらるるいさなう此後せぬ人筋と 基後
子年ヤケ人かきもや六月の三度すめぬさし波衣と 隆源
夏とらるる波衣とらるるいさなう此後せぬ人筋と 肥後
あま事波衣とらるるいさなう此後せぬ人筋と 紀伊
はあよさし波衣とらるるいさなう此後せぬ人筋と 河内

堀川院百首和弁卷上終

涇川院百首和哥中國錄

秋

立秋 七夕 萩 女鳥花薄

荊萱 蘭 萩 鴈 鹿

露 霧 橙 駒 迎 月

蜻衣 虫 菊 紅葉 九月盡

冬

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

穢女のを遊遊のたもつ満ちたをむじろひくいの穂ぬれり
紀伊
ふくくしと新汗や七夕枕よりけりしるるん 河内

萩

いしをなく酒萩志をれち好の那い道新すりも娘引り 公實
川ありは鹿の志をみきてをり浮てなれぬ萩萩の花 匡彦
萩萩はをまにをまぬたれとれめつゝ 外城 國信
二葉ありあさふの鹿は志をれとまのじ萩花 咲は 師光
萩うれ志をむじ風ううめ地落もらるるさるるさるる 弘孝
萩もれ志をむじさる萩の志をれせさるる落の志を 仲実
萩萩の志をれ落の志をれさるるさるるさるるさるる 後光

師光あれはるも咲ふらるる萩萩の花あれ萩萩もたつゝ 師光
あさふの志をむじもあさふ白落れたむの萩の萩はさる 弘孝
物落さるるけりひるる 棹鹿のじのさるる萩の萩系 基俊
綿のやひるる花とみゆらさるるさるる落の萩系 隆源
志あふひるるさるるのあさ萩はさるるさるるさるる 弘孝
墨香の志をれけり萩は萩の志をれけりさるる萩の萩 紀伊
さるる萩はさるる萩は萩の志をれけりさるる萩の萩 河内

女郎花

けりかむじさるるの萩の女をれ一日も萩の萩 公實
けりかむの萩はさるる 女郎花萩さるるさるる 匡彦

夕され、俄見の里に女節花行て入るこつら社され
露も志方花わりのくく女節花一あるおの神
秋夢いこれのため、女節花秋夜は白く秋思よ
いあるに今も又らん女節花志の花もくあ
こ吉野のやうに思のよとあるたれく露の
わくあのおの神夢よ生あて風よまわく女節花
夕霧よ直くれつたまきしとれ夜よひて霜よひん
あつて露のわもあつて女節花よあつたる女節花
おほく秋よの白露よわき衣よ守り女節花
あつたるあれれ宿に女節花に獨露けさ秋の夕くれ
幽信 師乳 秋夢 仲実 俊乳 師乳 秋夢 仲実 俊乳

女節花白ふ野今は流し縁の内にさの地社され
秋のよ秋夜はくも女節花よ秋夜にのよと
薄 何内

秋風よまらびすも此のわく縁へさつた露も色よ師
花すよさやよ野よ秋のよ秋夜にのよと
それ薄くよの初秋風よと秋思も今もく秋思めり
しよらて志の秋風くくあにるひく風の吹縁
風吹かよかの露わよあて露のち神乳よそか
く露をいよく露のく時よた露我よまよくく
まか露ほそよのいよ秋のちけて秋思も人よまよ
俊乳 仲実 師乳 秋夢 俊乳 仲実 師乳 秋夢

雲々これ名のつれづれのつれづれの名おまうとさ村の境 師時
春姑よ行くは福と唐子よ行くは福おれおらうらん 取仲
空夜よめくさうか初鳥の我のいさう候かうねと 某後
羽うろく雲下はわかさう初鳥いさよと外きこゆら 隆源
初鳥の泣きさつけて雲外は人のあひとせよ衆 肥後
こもさうや梅ののちよそなう初鳥の我のいさう候か 紀伊
そまう家あうらの山成石金の書いさうとそまう流河川 河内

鹿

拙るるや海と今と海此書とよとあまの志けり 公實
かよのたかかたけいさうとけいさうかあめく鹿書といさう 延彦

書とよと鹿の山ありと海の獨ねとけりおまう 國信
夕る書あけり海と鹿のいさうとあまの志けり 師時
よもいさう不此山よとあまの志けりとあまの志けり 取仲
よもいさう不此山よとあまの志けりとあまの志けり 仲実
よもいさう不此山よとあまの志けりとあまの志けり 後取
よもいさう不此山よとあまの志けりとあまの志けり 師時
よもいさう不此山よとあまの志けりとあまの志けり 取仲
よもいさう不此山よとあまの志けりとあまの志けり 某後
よもいさう不此山よとあまの志けりとあまの志けり 隆源
よもいさう不此山よとあまの志けりとあまの志けり 肥後

るけり書いられしと又書れ家のことと云ゆらうせせ 國信
吉野川海りもあま書ふやうせの海のものなり 師教
日原の書并しとみあうか書らうらう門の里 辰孝
は田やうらうこれ細しとらうらう能るもまぬ書 仲實
物白とんたの書れしと清くはけりあ書と世に 俊教
枯書の松山にあらぬれと下まらう書あえす 師時
夕書もあらうらうた書本に松山もなうらう 辰孝
わらうらう書れしとけり書れしとあくはり 基俊
何書に渡ぬしとあはれしとあのみと書物 隆源
書あふらうらうの書にあら書に車えらやまらう 肥後

枯書の高しとあうらうにあらうらうと書 紀伊
いあせんあしとあうらうらうらうらう 何日

橙

わらうらうあうらうらう 橙は面氣うぬ花と書 辰貴
白書とたしとくはしとて祝しとらうらう 匡彦
山書の志のわらうらう海はわらう明とえとゆ 團信
あさるもとらうらうらう年ぬれはゆら花とぬ 師植
海見よなもわらうらう終書とわらう 辰孝
あさるのこみつとえらう動らうらう海とえと 仲實
橙はとれの書とらうらうらうらう 後教

我成重善と唱むし一の教とんたの枯に枯ぬ
山里に藤ゆすのうらるに乱もあつる虫はくゑふ
蟋蟀おれのうきれに秋もさうもあすまう鳴あひ
枯すくがゆすいひ虫の喜れ笑ひし母にうらるる
さすく人教もせぬ古字は松虫のこゑうあめ
枯の野く虫の喜やなれしとく我物さひも催され
露のたみくうらるる花やけきりん草の村母より
河日

菊

志あつては八重咲菊の朝母は露の社花のうらるる
あつたりれ白のあつては菊の心じし社弟のあつては
公貴
運居

及人し位あつては白のうらるる白菊はなれ
奥山のうらるるの庭の菊を流を返してあつたりわ
うすくあつたりわは菊はわく露はこゑをぬぬ
金さすは八重咲菊の昔より老せぬ社花のうらるる
さすくは菊は白菊はかくわれの枯さして
あつたりんは社花のうらるる宿の菊は白菊は
白菊は白菊はうらるる八月の菊は白菊は
台川の菊はうらるる白菊はうらるる思ひさす
菊のむあつてはわつる菊の流さのむはうらるる
うらるるさすくは菊はうらるる白菊はうらるる
肥後

いけり秋の名秋と詠ましと初ハも葉も所吹
那へり也冬いさるん葉も葉も白葉乃葉
昔あきみの松の紅葉あきと下葉より冬は
まや冬いさるり母へ一松枯那く虫の葉
冬まきくいと青く紅葉のまは片葉神のま
紅葉も皆枯れそ母を葉より枯れ海は成
凡そ冬いさるり母へ一松枯那く虫の葉
後の男れお紅葉れそ一川へ冬は片葉の
時
縁るる葉山のうらやけりわきとわきとわきと初秋の
後頼 師時 弘仲 其後 澄原 肥後 紀伊 河内

うらやけり葉山のうらやけりわきとわきとわきと初秋の
深きこの河をてわらう子母よりうらやけりわきとわきとわきと初秋の
久世ハ河をよき葉はそつと長葉の紅葉は
あきりよ河をよき葉はそつと長葉の紅葉は
水鳥の青羽の山も紅葉月時葉はあきとわらうり
木葉のまきとまきと初秋ハ深も紅葉わらうり
紅葉月河をよき葉はそつと長葉の紅葉は
河をよき葉はそつと長葉の紅葉は
時くもよき葉はそつと長葉の紅葉は
河をよき葉はそつと長葉の紅葉は

匡房

國信

師相

弘季

仲實

後頼

師時

弘仲

其後

澄原

肥後

紀伊

河内

念づく藤八門とせられた者十のわら髪たりのり
あまの機乃すのちのちとて山とせと髪たの 国信
みらぬく人もあぬ山里は冬の下すう髪たの 師乳
命もた髪たのう我神と衣も包じ玉とやたの 乳香
こよ髪たの今も髪たの髪たの髪たの髪たの 伴天
意とせしむも髪たの常あれた髪たの髪たの 後乳
よ髪たの髪たの髪たの髪たの髪たの髪たの 師時
意の機の枝の葉のうと髪たの髪たの髪たの 乳伴
板ありの髪たのうと我乳の髪たの髪たの髪たの 甚後
おらるる人あるか髪たの髪たの髪たの髪たの 澄深

板あるるみ髪たのうと白髪たのうと髪たのうと髪たの 肥後
りい髪たの髪たの髪たの髪たの髪たの髪たの 紀伊
ぬいなる白髪たのうと髪たの髪たの髪たの髪たの 河内

雷

あすあつた板たのうと髪たのうと髪たのうと髪たの 公實
いよん束の板たのうと髪たのうと髪たのうと髪たの 匡房
吉那山を河と髪たのうと髪たのうと髪たのうと髪たの 國信
うと髪たのうと髪たのうと髪たのうと髪たのうと髪たの 師乳
志る名の髪たのうと髪たのうと髪たのうと髪たの 乳香
踏るる髪たのうと髪たのうと髪たのうと髪たの 伴天

鳥羽玉のつらつらよも香煙はなも煙もくおまはる
香のれは皆あつらぬおまのり越の志は
昔遊まひり筆もやぬや吉野の山は
奥山の松乃葉志のこころ香の人のあつら
却ぬの香のりぬまは志のきれ松の松は
及もなきはぬれち香のりぬまは志のきれ
白雪のり志のぬれは昔遊まひり筆もやぬ
新波江のわが舟もりしは社と香のりぬまは
雪松の野への志のぬれは昔遊まひり筆もやぬ

雪松

雪松くは花のぬれは雪松くは花のぬれは
雪松くは花のぬれは雪松くは花のぬれは
雪松くは花のぬれは雪松くは花のぬれは
雪松くは花のぬれは雪松くは花のぬれは
雪松くは花のぬれは雪松くは花のぬれは
雪松くは花のぬれは雪松くは花のぬれは
雪松くは花のぬれは雪松くは花のぬれは
雪松くは花のぬれは雪松くは花のぬれは
雪松くは花のぬれは雪松くは花のぬれは
雪松くは花のぬれは雪松くは花のぬれは

匡房 國信 師乾 取孝 仲文 後光 師時 隆源

水真のより川水よみゆる細代本は白浪の打も紀
細代本に浪のよみくやうりくわやあはれも常紀
源もなく白浪くろ細代本と水真のよりもやの信
肥後 紀伊 河内

神樂

天つる神のりともよらるもなほの煙ともみゆん 公実
曉の早まきともぬ都たの霧とも拂袖のまうり 匡房
禊とるゆりくわの終も冬の下天のいたともぬへん 國信
干早旅神のりも庭火多くし青丸神まうけし 師範
終夜とも都舞まうけく都のけきともやハ神のりも 辰孝
庭火多く天の雲も乃神まうけはあめらうらうたも舞き 伴実

くろみよ神ありんともものれともとのまつこは火白く 後光
ゆりけくやふ社の神まもをねあき余の面白神 師時
志くはきくぬくこのねはぬりさりてハめ夫の雲 辰仲
よはれまきぬ都舞まうけく都の雲ともぬへん 甚後
庭火の庭火人の光あきけくうらつる神ともはる 隆源
都舞まうけくこのねはぬりさりてハめ夫の雲 辰後
柳葉まうけくけく都人のされ分のりも推し 紀伊
さうらつる庭火のまもよる霧とも面白く 神 河内

鷹身持

将書 一と羽の音しはらひ白鳩の意とも 公実

市朝平ら野中の本君の志をこれにあらせしむる事はなり
明後とてはのの事はいはせしむる事はなり
市朝すとたしのの事はいはせしむる事はなり
志の節も捨くにはかの事はいはせしむる事はなり
也の節も捨くにはかの事はいはせしむる事はなり
日の節も捨くにはかの事はいはせしむる事はなり
市將すらかのの事はいはせしむる事はなり
屋の節も捨くにはかの事はいはせしむる事はなり
やの節も捨くにはかの事はいはせしむる事はなり
洛の節も捨くにはかの事はいはせしむる事はなり

匡房

國信

師頼

敬孝

仲安

後教

師教

既仲

基後

隆源

市朝平ら野中の本君の志をこれにあらせしむる事はなり
明後とてはのの事はいはせしむる事はなり
市朝すとたしのの事はいはせしむる事はなり
志の節も捨くにはかの事はいはせしむる事はなり
也の節も捨くにはかの事はいはせしむる事はなり
日の節も捨くにはかの事はいはせしむる事はなり
市將すらかのの事はいはせしむる事はなり
屋の節も捨くにはかの事はいはせしむる事はなり
やの節も捨くにはかの事はいはせしむる事はなり
洛の節も捨くにはかの事はいはせしむる事はなり

炭竈

市朝平ら野中の本君の志をこれにあらせしむる事はなり
明後とてはのの事はいはせしむる事はなり
市朝すとたしのの事はいはせしむる事はなり
志の節も捨くにはかの事はいはせしむる事はなり
也の節も捨くにはかの事はいはせしむる事はなり
日の節も捨くにはかの事はいはせしむる事はなり
市將すらかのの事はいはせしむる事はなり
屋の節も捨くにはかの事はいはせしむる事はなり
やの節も捨くにはかの事はいはせしむる事はなり
洛の節も捨くにはかの事はいはせしむる事はなり

公實

延房

國信

師教

敬孝

仲安

塘門院百首和哥下目錄

戀

初戀 念初戀 不會戀 初逢戀 後初戀
會不逢戀 路戀 思 片思 恨

雜

曉 松 竹 苔 鷓鴣
山 河 野 園 橋

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

海路 旅 別 山家 田家
 懷舊 夢 無常 祝 述懷

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 海路, 旅, 別, 山家, 田家, 懷舊, 夢, 無常, 祝, 述懷.

塙川院百首和昇下

意 初集

海とけい... 意の... 公實
 思ひあ... 匡房
 行ふ中... 國信
 垂せし... 師頼
 思あ... 既書
 知... 仲実
 な... 俊教

う紀事録のしきせんとのいふあはれ限のりもなり 國信
さるごとくわひらんと社名のふもあはれなり 師光
播磨のさるごとくのいふあはれ限のりもなり 師光
武蔵のさるごとくのいふあはれ限のりもなり 師光
あつちのさるごとくのいふあはれ限のりもなり 師光
いふせん我あはれなりとていふあはれ限のりもなり 師光
下ひのさるごとくのいふあはれ限のりもなり 師光
之のさるごとくのいふあはれ限のりもなり 師光
東海にのりていふあはれ限のりもなり 師光
いふせん我あはれなりとていふあはれ限のりもなり 師光

肥後 隆源 後 師時 仲実 後光

はききまにいひありぬれぬをいふあはれ限のりもなり 紀伊
いふせん我あはれなりとていふあはれ限のりもなり 河内

後朝恋

なくせんらるる社名をいふあはれ限のりもなり 公實
我士のわたりとていふあはれ限のりもなり 匡彦
あつちのさるごとくのいふあはれ限のりもなり 國信
師光のさるごとくのいふあはれ限のりもなり 師光
あつちのさるごとくのいふあはれ限のりもなり 仲実
あつちのさるごとくのいふあはれ限のりもなり 後光

公實 匡彦 國信 師光 仲実 後光

わきもあつあつ一葉のち〜海を〜人おとぼけたり 師時
ゆつと船の夜ハ夜と〜して言事ハ神代何よらん 弘仲
と朝三と夜ハ不もや海を〜行ハ〜と〜おろ不^{かきう} 基後
ハの事ハ〜白浪のた〜と〜と〜の^り 隆源
松河のせ此白浪ら〜あけ〜と〜^ま 肥後
あひ〜の朝の夜〜と〜月日も行らぬ 紀伊
眼目〜と〜社物〜 河内
逢不逢夜
待後ぬ〜と〜杖のちの志の〜と〜 公貴
志〜と〜と〜日〜布〜と〜と〜 匡房

あひ〜と〜と〜の〜と〜杖〜と〜と〜 國信
今〜と〜と〜何〜と〜の 師於
神〜と〜と〜と〜と〜 弘季
又〜と〜と〜と〜と〜 仲天
山嶺の〜と〜と〜と〜と〜 俊親
志の〜と〜と〜と〜と〜 師時
と〜と〜と〜と〜と〜 弘仲
苗竹の〜と〜と〜と〜と〜 基後
人〜と〜と〜と〜と〜と〜 隆源
福〜と〜と〜と〜と〜と〜 肥後

きりふよかのうへんあひまひまじとわらぬ恋元 紀信
逢坂の雲を翳あし東海の小とこに交まらぬ 阿
かき

端恋

獨りてたのしみよきあはれも 鹿子鳴れよ花柳よ 公實
玉子のなほゆきもや恋ひくもあはれも 匡房
ちやうどの行ふ程なりきあはれも 國信
あはれもあはれもあはれもあはれも 師範
あはれもあはれもあはれもあはれも 松雪
あはれもあはれもあはれもあはれも 仲実
あはれもあはれもあはれもあはれも 俊乾

あはれもあはれもあはれもあはれも 師時
あはれもあはれもあはれもあはれも 歌伴
あはれもあはれもあはれもあはれも 春後
あはれもあはれもあはれもあはれも 隆原
あはれもあはれもあはれもあはれも 肥後
あはれもあはれもあはれもあはれも 紀伊
あはれもあはれもあはれもあはれも 何用

思

獨りて我としてあはれもあはれもあはれも 公實
淡川世を浮舟のふれもあはれもあはれも 匡房

志ぬ斗おし思ひ情あふし今も力ともいふわ久 師時
いふもあつし心あふし我のし獨り思ふもか 既件
わゝ多涙しりもわ子の玉の珠の行恋もく津江 基後
ふれをこゝろも抱たももわらぬを何思ひか母 隆源
心成さあせぬをさしものさるまなも亦原 肥後
酒もあつし我人のし思ひすあし社をぬれられ 紀伊
我あふしあふしあふしあふしあふしあふしあふし 何月

恨

やもされたるいひの甚し業の恨もあし 公實
いひもあつしあつしあつしあつしあつしあつし 匡房

恨はうひたるわらひのあふし業成るも 國信
多めなる人の涙もあつしあつしあつしあつし 師礼
あひもいひもあつしあつしあつしあつし 既季
あつしあつしあつしあつしあつしあつし 件美
何事もあつしあつしあつしあつしあつし 俊光
あつしあつしあつしあつしあつしあつし 師時
あつしあつしあつしあつしあつしあつし 既件
あつしあつしあつしあつしあつしあつし 隆源
あつしあつしあつしあつしあつしあつし 肥後

我々といふに忘れ丸共萬葉にもいそぐみられり 紀伊
望しむとておもひつゝみよのこゝろもさつた 何日

雜

曉

曉の霞つらふかき鶴のこゝろちかき一羽をさへく 公実
まゝとておもひつゝ家の長けは名もあやふし 匡房
山崎とてうぢちよなりか白雲の曉むすむの末 國信
若衆旅本名ひかへせよ青の月もくもくよ 師頼
山里のけいのまはせけり 兼光の月そやとれ 弘孝
長月の有明の月おぼのくと 羽之崎の夢さへ 仲実

明ぬたりきけりこれより夜あけはん 後頼
手おのむく曉こゝに 新あて 新さへい 山をゆ 師時
若衆曉のたき若に 夢さへく 空はあけ 舟はさ 弘孝
ゆめあり 曉のたき けいさく けいさく 兼光
曉はあけ けいさく けいさく けいさく 隆源
さへ 梯の曉こゝろ あり あり あり あり 肌後
思ふ事も あり あり あり あり あり あり 紀伊
明ぬあり あり あり あり あり あり あり 河内
松
垣月よ あり あり あり あり あり あり 公實

奥山の岩のしほ松の陰にや昔の跡もたぬはぬ
うらむは今もたぬれ君うらむも昔は
まわれおれぬも根にまていん昔の事何
紀伊

雷

雲のまじりしは朝にけりあまのつらねは
はたかならむもあまのつらねももも
縄のいかなるもあまのつらねのつらね
難波のつらねもあまのつらねのつらね
海門のつらねもあまのつらねのつらね
古をまじり来るも海門のつらねのつらね
公實

細川さくらんぼの候にまじりあけまじり
君代のなるまじりあけまじりあけまじり
朝のまじりあけまじりあけまじりあけ
あけまじりあけまじりあけまじりあけ
はまじりあけまじりあけまじりあけ
君代のなるまじりあけまじりあけまじり
天の原をまじりあけまじりあけまじり
十年あけまじりあけまじりあけまじり
何

子

神さくらんぼのまじりあけまじりあけ
公實

六井川みかへう海く若洲よしじ袋のさくれも 後北
 権河さく月親の常より片葉よとじ鼻を底に人 師時
 名やおつわく海河を海えん志おのの親やうり 歌伴
 まゆ川流るる水の若くれくおのりよ浪そ花咲 基後
 吉野れう大川ありしそのい無いも又よ孫とよふ 隆原
 洲歌よもそとちるぬもやの海に流る河の 肥後
 名よたかく喜ふまつる喜野川きよまよふとこ 紀伊
 つけとを海をれれとみわれ川系たり人の親やと海 河内
 野
 雲根の野系の渙り結と入又ゆえ道の志うへり 公実

せうらゆせく野も此もや流るん約よ人の誓のえぬ 臣房
 けり風の吹よのよのわら系流る浦にあり 國信
 秋の野をらのまとい色約はめうらうとさけら 師光
 わらさうある野も若の流るれ親ゆい人の神を 歌伴
 月記よとわけの系た夕流よとめかふる衣さぬ 仲実
 さゆくよとと海る空城の舞のちとじの若き 後光
 又海に流るれ木のよ成らり今や小舎よと 師時
 藤の行程と流るじしう野の葉よ入すぬま 歌伴
 さうらりり流るよとてなうらるわそまのよ 基後
 こもつとも今けいんそ野のよとてふ葉れを 隆原

我せいのりまのいんむわさのよ鶴鳴あり葉く
かゆまてはかゆかゆかお松の香る文部や樹、紀伊
ふしのうき道成病をそ清水と程も法ひの長河の

園

いにくかそ使く実をゆれ我汁けけり
逢坂の雲乃せれも出くみよじりや傳の平路
浪のよまの的の月夜
只拙の山お葉のあふよ清ん実ハ杖をさう
いもあふくもれやまひきりんあふの雲浪子
をばたあふくさう雲結あふのちのちを今さあ
公實 匡房 國信 師光 既季 伴美

いづく都恋あふたされ浪の雲のりき由浦凡
白川の雲も林のこゆりた照厚親のすもわろれ
志る雲の余心まゆり越えありの此衣代雲成さる
あふまゆる社いよと親もさう我てよはくゆを
あふもゆり越えたる何口の雲れさぬことや朽
月影のゆを海とさる厚いんゆら海の雲よさゆぬ
越ぬりあひ社やれあらのくあふなり白川の雲
あふまゆるゆりもさるいよと親もさう我てよはく
河内

橋

板倉の橋成八重も海を橋負名さうすまこえはすり
公實

志未の板も昔じも汁橋よりの義世種ねん世世 匡房
うら浪も板の板橋橋よりの海州も今このいせん 國信
東海のもまかの橋あり相浪の橋もともまたたけり 師執
東海の内への船橋橋ねもいりさるあつははり 聖孝
まゝの海も昔じもあつははりさるあつははり 徳頼
朝夕もつよいとの橋なれあつははりさるあつははり 師時
浪もらんらん社すれ何書のいれもいれもいれも 肥後
橋よりの人もうよん板のともあつははりさるあつははり 肥後
東海も一様さるあつははりさるあつははり 肥後
あつははり橋ねもいりさるあつははりさるあつははり 肥後

さうふのくもてあつははりさるあつははり 肥後
浦もあつははりさるあつははりさるあつははり 肥後
浪奥の橋もあつははりさるあつははり 肥後
海路
うら浪の沖は橋もあつははりさるあつははり 肥後
大橋もあつははりさるあつははりさるあつははり 肥後
浪のむらさきさるあつははりさるあつははり 肥後
あつははりさるあつははりさるあつははり 肥後
あつははりさるあつははりさるあつははり 肥後
越の海乃あつははりさるあつははり 肥後

肥後 師執 聖孝 徳頼 師時 肥後 肥後 肥後

舟の... 舟の... 舟の... 舟の...
 舟の... 舟の... 舟の... 舟の...
 舟の... 舟の... 舟の... 舟の...
 舟の... 舟の... 舟の... 舟の...
 舟の... 舟の... 舟の... 舟の...
 舟の... 舟の... 舟の... 舟の...
 舟の... 舟の... 舟の... 舟の...
 舟の... 舟の... 舟の... 舟の...
 舟の... 舟の... 舟の... 舟の...
 舟の... 舟の... 舟の... 舟の...

旅

舟の... 舟の... 舟の... 舟の...
 舟の... 舟の... 舟の... 舟の...
 舟の... 舟の... 舟の... 舟の...
 舟の... 舟の... 舟の... 舟の...
 舟の... 舟の... 舟の... 舟の...
 舟の... 舟の... 舟の... 舟の...
 舟の... 舟の... 舟の... 舟の...
 舟の... 舟の... 舟の... 舟の...
 舟の... 舟の... 舟の... 舟の...
 舟の... 舟の... 舟の... 舟の...

隆源 基俊 師時 仲実 國信 師光 孫孝 俊光 仲実

高よふいふとこめむく菓の抱とくよじし
道きと物うちけめ約縁は菓其抱も縁ひと見し
白雲の心掛廉に縁のく大宜と社ありけり
河内

別

仰りえん程をも志くぬお海は文けてあり思ひ出せよ
向後と結今と力社老より別はたのこ成さのこりハ
ふふはち別とも使わくはまやうやの情忘れな
立別 女日あすりよ成よなりとるや名社乃名社ん
唐衣袖の別乃のりさいさひ立ん事そら屋
とありへん夜よもわぬ別縁は志くよんや実
師教
肥後
紀伊
河内
仲実

わらうなよよ山崎は江越く目教は書其あり仰り
おまの玉もこうつむ舟をれ漕別は分り
玉記をる命志くはあゆ人を結今と力社老ゆ
秋葉の立別ゆか書よよりたれぬよよ山崎
仰りえん及もおわぬくねおれ今具別を仰り
別海は実もさあめ個ふゆとあ後の名さよあめ
まの道の内も志くぬ別海はたあふのなを
思ひとい表のゆんといは志ありしよせめ別海は
河内

山家

ふよせ致りてと弟其る事そくか
公實

山屋ハまれの田乃秋強く雨に記のろくく所余色 匡彦
吾こめて露のこまけこ山屋ハ神波わくこぬ夕丸 國信
おまハ寝袋の底のこみ青く後以若くお渡枕か 師教
目算の若芥にわすれ果の戸八日のこすくはゆせてえろ 歌孝
は果やうこいも志あぬ山屋ハ薄の川もこさうやんろ 伴実
亦板のろくのこ山屋ハ麻のこくもむに志ころ 俊教
吾こは山だるぬのあられや八月の常る是嬉りろ 師時
終にわこ蘭はゆふのこくもろぬお田くこいん 弘仲
ま果こるも隠家より山屋にいそ八月の若きろん 基後
まこいこいこ人こたこ山屋ハ水こぬは秋はゆりろね 隆源

山屋のは果おこよち極今すれなわも空よ志はゆれ 肥後
間人こたれ山屋の清芽生んこのまに前りこまさせ 紀後
木の葉のこまおこるめり果の初りハ若く凡はゆせてえ 何内

回家

よおらりのろ志ろに田おけくて常こし麻と信わろ 公実
梅葉の光りも水もゆらるるそ山田もやよこ成ゆらる 道房
かこいあこは果の巻かろわめれろんろ秋のはろこぬろ 國信
我せこは果ろわぬけと情をわみつ田の巻八月をりろ 師教
か山田の梅のこ露ようすらけいぬめりも公さろりろわ 歌孝
秋回ろ行ゆれゆいこくろれと梅負名の果今くお 伴實

林の日はお繁ちりしな山雲を半とわらふよあひる系
むねくくる田中の宿のいふ聲我ひいぬまきりくこ
我うくけつ田のひくふせりて橋負名のちをさるん
こねぬぬぬあわらさあ我宿のいとちわお田と斬りてん比
宿もせに朝毎の成りてふらたて地ゆひてふせり分
いゆきの外登成しぬ庭のせはつ田の橋成すゆけ
とらそめとらう宿にいけふくひてまう山宿とまうな
小山田の橋んは露を打拂ひつらあう一葉秋志見ん
何月

懐舊

後代 師時 那伴 其後 隆源 肌後 紀後 何月

押あの下へるまきとあへの花のいふは忘れりりり
いひあすまのともあは有和をたよまの春あん
徒よまは月日さうさうまは昔は志のふ福をなうりり
赤の代のみもまともや岩代のおちの松成結ひゆらん
朽よりそやあつこの橋ねおられけし此は中して
あはれとていそぞあう取さうらうをさるんさ昔がなぬ
らうばうまのかりやみらんらうらうこはあらの事切れ
あひあき秋をけぬゆりれなき昔をさるん洞をんら
老らくの氣さるはひよほとくまむ昔は出りりる
み宿の巻ハ清茅に意さる隣の前れきけして

匡彦 國信 師親 那伴 後代 師時 那伴 其後 隆源

日にかぐりかぐりの雲はゆりゆくゆりあましの雲は
我々の心はあはれなる心都そ今もあはれなる心
さ月の光はゆりゆくゆりあましの雲はゆりゆくゆりあましの雲は

夢

さきよはゆりかぐりの雲はゆりゆくゆりあましの雲は
百も花はゆりかぐりの雲はゆりゆくゆりあましの雲は
あはれなる心はあはれなる心都そ今もあはれなる心
さ月の光はゆりゆくゆりあましの雲はゆりゆくゆりあましの雲は
あはれなる心はあはれなる心都そ今もあはれなる心
さ月の光はゆりゆくゆりあましの雲はゆりゆくゆりあましの雲は

肥後 紀伊 国信 師教 肥後 紀伊 国信 師教

さきよはゆりかぐりの雲はゆりゆくゆりあましの雲は
あはれなる心はあはれなる心都そ今もあはれなる心
さ月の光はゆりゆくゆりあましの雲はゆりゆくゆりあましの雲は
あはれなる心はあはれなる心都そ今もあはれなる心
さ月の光はゆりゆくゆりあましの雲はゆりゆくゆりあましの雲は
あはれなる心はあはれなる心都そ今もあはれなる心
さ月の光はゆりゆくゆりあましの雲はゆりゆくゆりあましの雲は

無常

肥後 紀伊 国信 師教 肥後 紀伊 国信 師教

世の中とくはものまじりてのわかれなき世の深き
をりては静かき心なれば神のまじりて
はるかに清き心なれば神のまじりて
朝日結露斗あやふくそなたにけりて
世の中とくはものまじりてのわかれなき世の深き
をりては静かき心なれば神のまじりて
はるかに清き心なれば神のまじりて
朝日結露斗あやふくそなたにけりて
世の中とくはものまじりてのわかれなき世の深き
をりては静かき心なれば神のまじりて
はるかに清き心なれば神のまじりて
朝日結露斗あやふくそなたにけりて

肥後
国信
師長
仲夏
後長
師時
其後
隆原

花の茂る本は葉をみまはしむ世のつひに
まこと世のつひにまこと世のつひに
祝
君の代に教をみまはしむ世のつひに
神の代に教をみまはしむ世のつひに
君の代に教をみまはしむ世のつひに
神の代に教をみまはしむ世のつひに
君の代に教をみまはしむ世のつひに
神の代に教をみまはしむ世のつひに

肥後
国信
師長
仲夏
後長
師時
其後
隆原

君代の松の上葉にむすのつりた宮の電様
 俊頼
 仁心ぬ氏の角のわたりとまきくも君代は八
 師時
 唐よりなれぬをぬる門の影より浪や五代は
 取仲
 奥のやけの積君代はよく信成をひとすん
 甚後
 君代らんるの積成よりすく八百方代を子成
 隆源
 君代はある所の唐よりなるまじへし
 肥後
 何事につけく君代はのまじへし
 紀伊
 枝をけき白玉様君代はくよりくわひくく人
 河内
 述懐
 何事して君代は人朝毎は後の影をるはく
 公実

月を待たぬ葉の落を物わけのくまのよし
 運房
 月を待たぬ葉の落を物わけのくまのよし
 國信
 力のくまのよし
 師教
 かなや、八我力越の白山のくまのよし
 取春
 かなや、八我力越の白山のくまのよし
 仲実
 かなや、八我力越の白山のくまのよし
 師時
 かなや、八我力越の白山のくまのよし
 取仲
 かなや、八我力越の白山のくまのよし
 甚後
 かなや、八我力越の白山のくまのよし
 隆源
 かなや、八我力越の白山のくまのよし
 肥後

いぬくわすく〜きふらんきぢよふむりなげんちうり
しんぶんいんもくはなむら老をともをふふぢぢれ何日
紀伊

俊頼

とみみ川 世の思はし 和さるり 子言るハ
あふれと せむ方なき せれり 鹿の心
たり事ハ ともし事の くれと ぶくはハ
かたれとと いてええと なきあぢ ともれ無
ふれとく いんもく かけなき 浪の舟ハ
あつけとと じかふぢハ みるたを 子言るを
ふか〜きに 老ふのちけり くるも おさふぢ

くちらそめ 何事よふ ありれと せむらふ
あふ〜たり うち聖書の ちあての 子ともぢぢ
さくらのの かなうとも くるら 半せぬま
あつ風乃 つけまはと ちりあぢ うのちぢ
おゆへんじ あまのね ちまはと 我あよま
せりや〜り 昔はあま ちりちり 雲のふみ
なれはとぬ ちあまの事 久この 月あぢ
あれ祿と ちあまの事 咲なま けしあま
いせとよ 官方の山 ちあまの事 ちあまの事

くろし
及昇

世中
及昇

堀河院首首誓下終

Handwritten text in a grid format, likely a list of names or titles, including characters like '源朝長' and '藤原朝長'.

評人

正二位行權大納言兼東宮大夫藤原朝長公實

正三位行權中納言大江朝長廷房

正二位行權中納言源朝長國信

兼議正三位行右兵衛督兼備中權守源朝長師賴

從二位行修理大夫藤原朝長顯季

高位下行越前守兼中宮權大進藤原朝長仲實

從四位上行木工頭源朝長俊賴

從四位上行元近衛權中將兼備中權介源朝臣師時

散位從四位下藤原朝臣顯仲

散位從五位上藤原朝臣基俊

阿闍梨傳燈大法師隆源

肥後 皇后宮女房

紀伊 祐子內親王女房

河內 俊子內親王女房

西入

新以雲與虎滿風例

今也聖德溢于四海仁恩及于輿域治

教体的而凡活澄登是也新臣安統泰

山極思養海白魚阮秋封禪新系凶忌

曩和秋大興治庶人荷貴負能三不學

寫是之業教而下治境於此虎滿之福

於水海深火初燥於乞平累代勅撰家

款集靡繕于梓不流布後世西與粵有

携書歸者一日携書來曰此是汝河院
之百首也欲梓之信者子分徑傳辭
通余素學佛教之文獻俗典況於和
平治然瞻望那辭之獲已披求者
之考訂之如之深別以俟君子
是又安慶寅四月望 雲堂大居士跋

野田庄右衛門

